

OCU

RCHR

大阪市立大学人権問題研究センター
第52回 サロンde人権

話題提供：シェファリカ・トリプラ
(カグラプール女性福祉組合代表)
：ナシマ・アクタル
(ナリ・ポッコ事務局長)
通訳：トム・エスキルセン

バン
グラ
デシ
ユの
先住
民族
ジュ
マへ
の抑
圧と
立ち
上る
女性
たち

無料

11月2日 (水)
午後3:00～5:00
高原記念館
2階特別会議室

お問い合わせはセンターまで
06-6605-2035
info@rchr.osaka-cu.ac.jp

バン格拉デシュ、チッタゴン丘陵地帯は古くからモンゴロイド系の先住民族ジュマの人々が住んでいました。その地へ1970年代から政府による大規模な入植政策と軍事占領が始まり、数々の人権侵害と虐殺事件が起こり紛争へと発展しました。1997年には政府とジュマの間で和平協定が結ばれたものの政府はその約束をほとんど実施せず、状況はますます悪化しています。特に大きな被害を受けてきたのはジュマの貧しい女性たちでした。軍や警察、ベンガル人入植者による暴行事件が起きても犯人が罰されることはなく、経済的にも社会的にも非常に弱い立場に置かれています。しかし今、民族の壁を越えた連帯のもと、人権侵害に声をあげ、自らの自立とエンパワーメントを目指して女性たち自身が闘っています。その現場からジュマの女性活動家シェファリカさんが体験をもとに語ります。